平成 24 年 5 月 19 日

各　　位

会 社 名　株 式 会 社 マ ル マ エ
代表者名　代表取締役社長　前田　俊一
（ コード番号：6264　東証マザーズ ）
問合せ先　取締役管理部長　藤山　敏久
（ TEL. 0996-64-2900 ）

平成 24 年４月度 月次受注残高についてのお知らせ

当社は、投資家をはじめとするステークホルダーの方々に、より正確に当社を理解していただくために、自社情報のタイムリー・ディスクロージャーを推進しておりますが、この一環として、下記のとおり当期平成 24 年４月度月次受注残高情報を開示いたします。

記

１．月次受注残高　　（百万円未満切捨て）

区分	受注残高	割合	対前月増減率	対前年同月増減率
ＦＰＤ分野	41	35.9%	55.7%	△69.1%
半導体分野	26	22.8%	△23.1%	△13.5%
太陽電池分野	0	0.0%	―	―
その他	48	41.3%	△0.4%	―
合計	116	100.0%	6.2%	△31.0%

２．月次受注残高の推移　　（百万円未満切捨て）

区分	H23.5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
ＦＰＤ分野	※144	156	188	159	168	113
半導体分野	※35	35	28	34	21	46
太陽電池分野	0	0	0	0	0	1
その他	0	1	0	2	0	1
合計	※181	194	217	196	191	162

区分	11 月	12 月	H24.1 月	2 月	3 月	4 月
ＦＰＤ分野	71	51	44	16	26	41
半導体分野	35	35	31	39	34	26
太陽電池分野	0	0	0	0	0	0
その他	1	5	48	51	48	48
合計	109	92	123	107	109	116

※四半期決算処理に伴う修正を行いました。

３．月次受注残高の概況

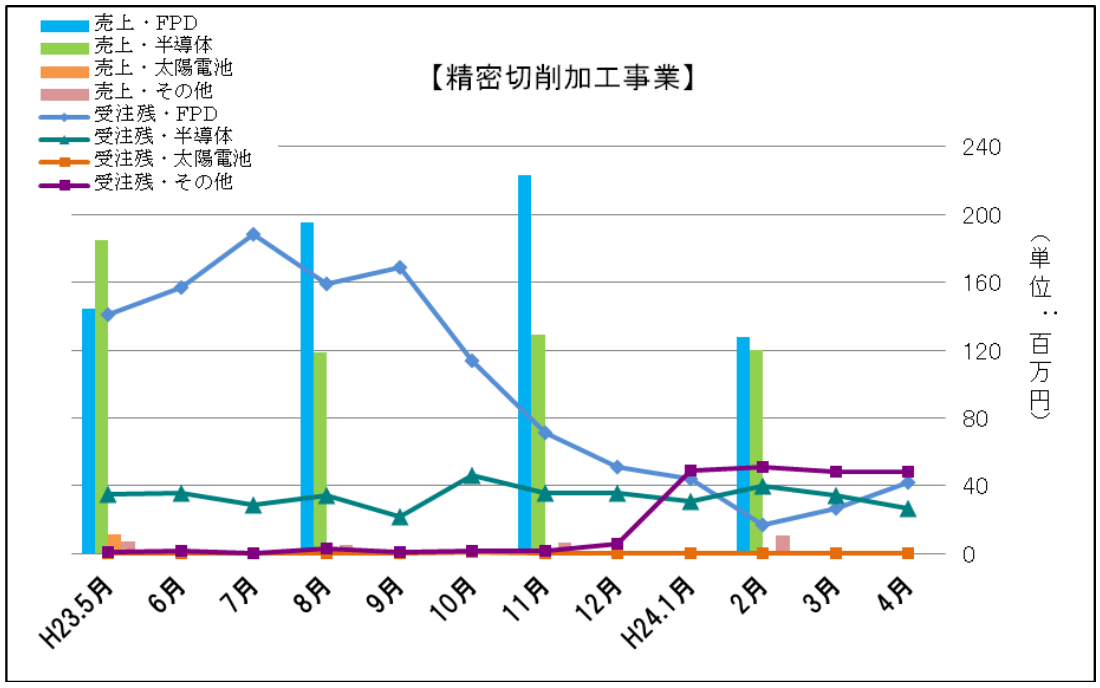
平成 24 年４月末の受注残高は、ＦＰＤ分野においては、前月より中国向け案件を中心に受注が回復傾向にあることから、対前月増減率で 55.7%増、対前年同月増減率では 69.1%減の 41 百万円となりました。また、半導体分野においては、出荷検収は堅調に推移しながらも３月決算顧客からの年度末前後に関連した受注調整がある事から、対前月増減率 23.1%減、対前年同月増減率 13.5%減の 26 百万円となりました。一方、その他分野においては受注済みの原子力関連の案件が生産中であることと、新規顧客の受注も横ばいで推移したことから、対前月増減率 0.4%減の 48 百万円となりました。なお、太陽電池分野の受注においては、大きな動きはありませんでした。これらの結果、対前月増減率 6.2%増、対前年同月増減率 31.0%減の 116 百万円となりました。

今後の受注見通しといたしまして、ＦＰＤ分野においては、中小型パネル向けの設備投資再開が若干遅れ気味でありますが、第４四半期以降には国内外で再拡大し始める見通しを持っております。半導体分野においては、市場の在庫調整が一巡したことに加え、当社内生産コストダウン進展による従来顧客内でのシェア拡大と新規案件向けの試作の増加が進んでいることから、拡大傾向にあります。太陽電池分野においては、厳しいコストダウン要求が続く中、当社の強みを活かせる案件で試作受注が続く見通しです。また、その他分野では、原子力や医療分野での受注拡大を目論んでおります。

全般的には、市場環境の停滞が続いておりますが、当社では社内生産力を試作品と短納期品に活用し、新規部品の受注拡大を図っております。また、社内生産力でまかなえない受注の拡大には協力企業との取引拡大で対応するなど、市場環境変動に影響されにくい構造改革に取り組んでおります。

以　　上

(参考：分野別　過去一年間の四半期売上高と月次受注残高の推移)



注 1. 上記受注残高の数値は、速報値であるため、翌月以降に修正される可能性があります。また、監査法人による会計監査を受けておりませんので、本決算の数値とは差異が発生する可能性があります。

2. 当社の受注残数値は、受注別に長短さまざまなリードタイムを持つことから、売上高と直接関連するものではありません。リードタイムの長い案件が増えると受注残が多くなり、リードタイムが短いか当社月間生産能力範囲内の受注が増えると受注残が減る傾向となっております。